



環境リーダーNews

特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 「会報」
ホームページ <http://kankyo-leader.org>

2019 7/28

Vol.107

季刊発行 夏号

特集:3面「地球温暖化対策技術の動向」



写真は総会と特別講演の様子

令和元年度の環境活動方針

今年は令和元年、新しい年号時代を迎えました。平成の後半を振り返ると、大型自然災害の多発、国連の持続可能な開発の2030アジェンダ（SDGs）の採択やマイクロプラスチックの海洋汚染など、自然環境への関心がこれまで以上に高まりました。こうした環境課題への意識の高まりを背景に、当会の環境活動も大幅に拡大しました。

環境活動の増大に伴い、当会の運営コンセプトである「地域の環境保全活動や環境学習活動を支援する」活動が、従来からの単なる継続や伝承では、環境活動スキルの面や財政基盤の面で難しい状況になってきています。



代表理事
田口繁雄

令和元年の今年度は、「次世代を担う子どもたちへ豊かな環境学習を提供する」との信念を再認識し、環境体験教室や環境イベントなどへの活動メニューをこれまでに増して充実化を行い、活動成果や貢献度などを具体的に協力者、参加者、支援者、地域住民などへ提供して行くことが重要であると考えます。その方策として、活動メニューや学習カリキュラムに工夫と改善を加え、環境活動のレベルアップを積極的に実施して行きます。

合わせて、当会運営の財政基盤である財政収支の改善についても積極的に対策を実施して行きますので会員皆様のご協力をお願いします。今年度は、当会にとって様々な面で変革のスタートと位置付けて進めて行きます。会員の皆様には健康に十分留意いただき環境活動へ参加し、活躍していただきますようお願い申し上げます。

今年度の役員業務分担

事務局 武澤研二

【代表理事】田口繁雄助成金・補助金担当、個人情報管理責任者、県・環境科学センター担当、かながわアジェンダ推進センター理事

【副代表理事】石井榮地域活性化担当、県・青少年科学体験活動推進協議会担当、さがみはら地球温暖化対策協議会担当、代表理事職務代行一、廃棄物部長、吉岡嗣二郎会計、助成金・補助金担当、新規事業担当、横浜子ども科学館事業担当、代表理事職務代行二

【理事】石原靖文「新任」横浜子ども科学館事業担当、会計担当、小林信雄広報部長、ホームページ管理責任者兼管理担当、会報担当、品川高儀県・環境科学センター担当、鈴木勝男広報担当、エネルギー部会長、濱辺謙吉安全管理担当、県環境科学センター担当、三田重雄新規事業担当、柳川三郎スキルアップ事業担当、グリーン部会長、吉田和史（名簿管理担当、県・環境科学センター担当、自然環境部会長、吉村美男大気・水環境部会長）

【監事】井上勝義、桑原清

【運営委員】伊藤富男（大気・水環境部会担当）、金丸勝彦（広報担当）

「第1回スキルアップ講座」を受講

スキルアップ事業担当 柳川三郎

県・環境科学センターが恒例開催するスキルアップ講座、今年度の第1回講座が7月11日（木）に同センターにて開催されました。演目は「生物の多様性と私たちの生活」と題し、講師は国立環境研究所の生物・生態系環境研究センター、生態リスク評価・対策研究室長の五箇公一氏。論旨は私たちの生活環境とかかわる膨大な「生物の生態系」について、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性、景観の多様性など様々な視点から体系的に論じられました。生態系の破壊は人間の生活活動、経済性追及、乱獲、食生活が大きな要因であること、生物多様性の損失は生息地の破壊、外来種の移送など私たちの生活環境にも大きく影響していることなど。

外来種の脅威については、オオクチバス、マングース、ヒアリ、カエルツボカビ菌などを例に、グローバル社会化が大きな要因であり、人間社会にも深刻なリスクとなっており、その対策例などを解説されました。また、ダニ、トコジラミ、シカ熱、ウイルスなどへの対策については国家戦略プロジェクトが始動していることも。



生物の多様性について講演する五箇公一氏

クワガタムシと日本人とは特別なかわりがあり、里山は日本独自の自然と共生社会を構成していると論じました。最後に、五箇氏の専門分野である「ダニ学」についてエピソードを交えたユニークな説明があり、サプライズとして五箇氏サイン入りエコバックのプレゼントがありました。当会から多くの理事が受講しました。



「2019年度 夏休み子ども環境体験教室」のご紹介

県・環境科学センター担当 濱辺謙吉

今年も「夏休み子ども環境体験教室」を神奈川県環境科学センターとの共催で8月5日（月）から8月9日（金）まで、平塚市の神奈川県環境科学センターで開催します。教室は、①「人工の雲を作ろう」、②「つかめる水を作ろう」、③「身近なもので電池を作ろう」、④「森の木エクラフトで森を考えよう」、⑤「汚れた水をきれいにしよう」、⑥「手作り顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう」、⑦「見えない空気は何でできている?」、⑧「発泡スチロールでオリジナル表札作り」、

⑨「環境地球儀を作ろう」、⑩「太陽の光で回るソーラー風車を作ろう」の10教室です。これらの教室は環境、宇宙、気象、大気、水、植物、森林、電気と光のエネルギー、プラスチック等について分かり易い解説と、楽しい実験や工作によって子どもたちの科学的認識と興味を育み、地球温暖化等の環境問題について考える良い機会になることでしょ。勿論、夏休みの宿題にも役立つでしょう。この教室は「第19回かながわサイエンスサマー」に参加しています。また、一部の教室は「神奈川県地球温暖化防止活動推進センター」との共催です。



③レモン電池を作ってモーターを回す



④森の素材で生き物の作品を作る



⑨環境地球儀を作って世界を知る

Leader's TOPICS

地球温暖化対策技術の動向

エネルギー部会長（神奈川県地球温暖化防止活動推進委員） 鈴木勝男



地球温暖化に対する緩和策として、温室効果ガス（主として二酸化炭素 CO₂）の排出を抑制するため様々な取り組みが世界各国で行われていることは幅広く知られています。一方で、温室効果ガスの排出抑制だけでは不十分と指摘する科学者や政治家によって、気候をコントロールする技術（ジオエンジニアリング）の開発が進められています。しかし、何故か新聞やテレビ等では一部しか報道されておらず、あまり広くは知られていません。

これは、現在の CO₂ 排出削減努力に水を差さないためとの見方もあるようです。ジオエンジニアリングには、大気中の CO₂ を直接回収する技術（ネガティブエミッション技術）と人工的な手段で太陽光を減らす技術（ソーラージオエンジニアリング）の2つがあるので、それらの技術動向について紹介します。

■ネガティブエミッション技術

大気中の CO₂ 濃度は 0.04% しかなく、大気中から直接 CO₂ を回収することは困難とされてきた。しかし、スイスとカナダのベンチャー企業が 2015 年に実証プラントを稼働させ、それぞれ 2017 年、2018 年にその実現性を発表したことで、大きな注目を浴びている。プラント



大規模プラントの想像図(2018/6/8 BBC)

により CO₂ をフィルタに付着させ更に加熱処理を経て濃縮した CO₂ を取り出すというものである。

また、濃縮した CO₂ は、これまでのように地中に埋めるのではなく、野菜の肥料や液体燃料として有効利用できることも立証している。将来的には、年間 100 万トンの CO₂ を回収する大規模プラントの建設を計画している。日本でも、環境省が大気中の CO₂ を直接回収し、資源として活用するための実証事業を 2019 年度から開始する方針を発表した。2022 年度までに実用化に必要な技術の確立を目指すとしている。

■ソーラージオエンジニアリング

人工的な手段で太陽光を減らす方法は数十年前からいくつか提案されてきたが、地球環境への悪影響も懸念されるため賛否両論があり、未だ実行には至っていない。2018 年になり、ハーバード大学の研究チームが、地球温暖化の抑制効果やその他の影響を確認するため、太陽光を遮断する実験を行うことを発表した。これは、1991 年のフィリピン、ピナツボ火山の大噴火により噴き上がった二酸化硫黄が太陽光を遮断し、およそ 1 年半の間地球全体の気温を 0.5℃ 押し下げた事実をヒントにしている。

このプロジェクトでは、300 万ドル（約 3 億 3000 万円）の予算を投じ、アメリカ南西部からバルーンを飛ばし、上空 20 キロの成層圏に送り込むという。バルーンからはチョーク（炭酸カルシウム）の粉が放出される。実験は早ければ 2019 年春から始動し、2019 年中に何らかの結論を導き出すかもしれないと期待されている。しかし現実的には、一様に且つ定期的に炭酸カルシウムなどの微粒子で地球全体を覆う必要があることやそれによる地球環境への副作用の解明など課題は多い。果たして、地球温暖化対策の切り札になるだろうか。

「かながわエコ 10 フェスタ」に出展

大気・水環境部会長 吉村美男



水の不思議「つかめる水」の実験

かながわ地球環境保全推進会議が提唱する「私たちの環境行動宣言・かながわエコ 10 トライ」の機運を高めるため、「地球環境イベント・かながわエコ 10 フェスタ 2019」が 5 月 25、26 日の両日、横浜公園で開催されました。当会からは 25 日（土）のみ、「水」をテーマのブースを出展しました。当日は、各地で高温記録を更新し、横浜公園の会場も気温がグングン上昇してブース内は 35℃。当会ブース「つかめる水」への来場者は 270 名程、講師陣 7 名が汗だくで対応しました。来場の子供たちは 2 種の溶液を混ぜ合わせてブヨブヨした水玉を手のひらに乗せて不思議な水の感触を楽しみました。

はまぎん こども宇宙科学館・洋光台サイエンスクラブ教室

2019年度 環境体験教室 報告

実行委員 小林信雄 田口繁雄

今年度の「環境体験教室」は、洋光台サイエンスクラブが43教室に、夏休み特別企画・自由研究ラボ8教室を加え、合わせて年間51教室が実施されます。

この内、本稿では、4月から6月までに実施した洋光台サイエンスクラブ17教室（右ページ上部表）の成果について報告します。夏休み教室については右ページの下部表に開催予定を紹介します。

当会の「環境体験教室」の内容は、子どもたちが身近な自然のバラエティに富んだ環境に触れ、体験しながら自然環境について学び、体得するように構成しています。すなわち、植物、花、土、空気、水、川の生物、海の生物、電気、エネルギー、重力、温暖化、省エネなど多岐にわたるテーマ構成で展開しています。

今年度の「環境体験教室」は、植物ジュニアレンジャー教室から始まり、新規開発した4教室が開催されました。①植物ジュニアレンジャー養成教室では、科学館の隣接公園で植物観察体験と球根の鉢植えや植物版画作りなど3教室を体験し、子どもたちは植物レンジャーとしての知識を身に着けました。

⑤植物レンジャー実技の3教室は、会場を県立保土ケ谷公園や湘南海岸公園で開催しました。保土ケ谷公園では植物の温暖化をテーマに森の温度測定や外来植物の調査などを行いました。湘南海岸公園では、浜辺の植物の特徴などを観察し、砂浜でマイクロプラスチックの調査を行いました。また、植物ジュニアレンジャーの認定者4名に対して認定証とレンジャー・バッジを授与しました。

新規の4教室は、②「動物かくれんぼ」教室は生物多様性を支える食物網とその中で動物が身を守るための保護色を学び、昆虫や魚の塗り絵を野原や海中の背景に置き保護色にしました。食べた食材の生物種をまとめ生活の中の食物網を学びました。④「花だんご」教室は、花の育て方を体験的に学ぶもので、植物の光合成、土の肥料や水やりを理解した後、泥だんごを作って肥料を埋め込み、表面に花の種を植え付けました。花だんごを自宅に持ち帰って水やりなど育成管理を体得しながら花を咲かせます。子どもたちから、花の生長、開花した写真が届くことに期待しています。



①ウッドチップで写真立て作り



②海中画像と魚模型で保護色実験



③太陽光風車を作って回す実験



④「花だんご」の苗床、泥だんご作り



⑤海岸でマイクロプラスチック探し



⑧小川で網を使って生き物捕りに挑戦



⑨紫キャベツで色が変わる実験



⑪資源の節約、地産地消の紙芝居



⑬トンボのヤジロベエでバランス実験

夏休み特別企画・自由研究ラボ「環境体験教室」開催のお知らせ

⑪「身近な資源を大切にする」教室は、食べ物やエネルギーなどの大切さを学び、「もったいない」の意識を高めることが目的。食べ物の地産地消、自然の恵みと消費の仕組みを学んだ後、買い物レジ袋のマイバック化ではプラスチックの海洋汚染の話をし、家庭の省エネについて照明の電気消費実験を行いました。⑰「トンボのヤジロベ」教室は人や動物が移動するときの重心の働きとバランスを体験的に学ぶもの。2台の体重計に乗り左右に体を移し重心移動を眼で体験しました。「トンボのヤジロベ」や「小鳥だるま」を工作し重心位置を変えてバランスを取ることを体得しました。動物は生きるために移動すること、多様な自然環境が必要なことを子どもたちと考えました。

会員の皆様、教室開催の回数が増加しておりますので、授業支援(スタッフ参加)をお願いします。子どもたちの好奇心と一緒に授業に参加することはとても楽しく、有意義です。スタッフ参加をご希望の方は、下記へご連絡ください。
E-Mail: npo.k.leader@gmail.com

2019年度 洋光台サイエンスクラブ「環境体験教室」リスト

No.	教室名称	開催日(曜)	講師名
1	めざせ植物ジュニアレンジャー(1~3)	4月13日~	吉岡嗣二郎
2	「動物かくれんぼ」こいのぼりを作って保護色実験「新規」	4月14日(日)	武澤研二
3	太陽の光で風車を回そう	4月20日(土)	三田重雄
4	「花だんご」を作って花を育てよう「新規」	4月21日(日)	柳川三郎
5	植物ジュニアレンジャー活動(1~3)	4月27日~	吉岡嗣二郎
6	みどりのカーテンを作ろう	5月11日(土)	柳川三郎
7	海藻おしばを作ろう	5月12日(日)	松原洋一
8	和泉川・地蔵原の水辺で生き物観察会	5月19日(日)	吉村美男
9	紫キャベツで色が変わる水マジック	5月25日(土)	長村吉洋
10	木の二酸化炭素吸収を調べよう	6月1日(土)	荒谷輝正
11	身近な資源の大切さを学ぼう「新規」	6月2日(日)	柳川三郎
12	身近なもので電池を作ろう	6月8日(土)	吉田和史
13	化学の不思議「つかめる水」を作ろう	6月9日(日)	柳川三郎
14	テコの実験でパワーを学ぶ	6月22日(土)	柳川三郎
15	手作り顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう(花粉編)	6月23日(日)	石井 榮
16	大豆もやしを育てよう	6月29日(土)	上田恵一
17	トンボのヤジロベと小鳥だるままでバランス実験「新規」	6月30日(日)	武澤研二

はまぎん こども宇宙科学館

夏休み特別企画・自由研究ラボ「環境体験教室」開催のお知らせ

今年の「夏休み特別企画・自由研究ラボ」は、「宿題だって楽しみたい!」をテーマに開催されます。当会からは子どもたちの夏休み宿題に役立つ8教室【右表】を開催します。

昨年と同じ教室に加え、新規⑤「色の実験と偏光万華鏡」の教室では身近な光と色の性質や現象について実験や工作を楽しみます。

屋外では小川で生き物捕りや水ロケット飛ばし、屋内では森の木エクラフトや環境地球儀作りなどの工作教室を開催します。



水性ペンの色分離実験

2019年度 自由研究ラボ「環境体験教室」リスト

No.	教室名称	開催日(曜)	講師名
1	和泉川・地蔵原の水辺で生き物観察会	7月27日(土)	吉村美男
2	リサイクル紙で丈夫な椅子を作ろう	8月2日(金)	荒谷輝正
3	ペットボトルで水ロケットを作って飛ばそう	8月12日(月)	三田重雄
4	森の木エクラフト作りを楽しもう	8月16日(金)	香川興勝
5	色の実験と偏光万華鏡を作ろう「新規」	8月17日(土)	大岩俊雄
6	種グライダーを作って飛ばそう	8月18日(日)	石井 榮
7	プラスチックのリサイクル実験と発泡スチロールで表札作り	8月20日(火)	長村吉洋
8	環境地球儀を作ろう	8月22日(木)	上田恵一

熱中症対策

安全管理担当 濱辺謙吉

先般、当会では「熱中症対策ハンドブック」をホームページに公開し、会員の皆様にご利用頂いております。本稿では、ハンドブックに書かれていない熱中症対策についてお話いたします。熱中症は暑い環境の中で体温調節が適切に行われず、体温が上昇することによって発症します。発症時の体温は平熱プラス1度が目安と言われています。子供の顔が赤くなっていたり、触れると熱いと感じたら直ぐに対応することが必要です。上昇した体温を下げるために私達は発汗します。



100ccの汗は体重70kgの人の体温を1度下げると言われています。この水分は身体から失われますので逐次補うことが必要です。水分は筋肉に蓄えられますから、筋肉が少ない高齢者は身体の水分も少ないので、こまめな水分補給が必要です。自分の若い頃と比べて暑さを感じなくなったり、汗をかき難くなったりすることは決して良いことではないので、平常時に自分の体の変化をチェックして自覚することが大切です。

連載 会員活動紹介 Club Life

想像力を育む実体験を子どもたちに

自然環境部会 高橋徹男

環境学習リーダー会の活動に参加して4年目をむかえることになりました。昨今、地球環境が激変し、変化が激しくなっていく未来の社会を切り開きつつ強く生き抜いていくことを求められている子どもたちの想像力やチャレンジ精神などの能力を育成するためには、多くの実体験を経験させることが不可欠だと思っています。最近の子どもたちは自然に触れることが少なく、自然と人とのかかわりを学ぶ機会がかなり不足していると思われる。自然の中で思いっきり遊ぶことを通して、環境とのかかわり方や自然の営みや自然からの恵みなども体感できると考えています。

植物観察授業中の筆者 ▶



環境学習リーダー会では、植物ジュニアレンジャー講座など自然環境に関わるテーマで子どもたちの興味をひく活動内容が多いので、毎回、意欲的に取り組む子どもたちの姿が見られます。疑似体験が多い社会の中で、本ものに触れた時の子どもたちの目の輝きや感動を感じる時は自分もうれしくなってしまう。

植物観察の体験授業では、自然の様々な事柄が知れて、子ども向けの活動内容であっても、大人も色々なことが分かって、自分自身も楽しく参加できています。また、子どもたちから逆に教わることもたくさんあって、大変勉強になっています。自然を読み解く力を身につけ、持続可能な社会を構築していく子どもたちが一人でも多く育つことに期待しています。

洋光台緑地 「トンボ池自然観察教室」

大気・水環境部会 大岩俊雄

6月1日(土)、洋光台緑地で小学生と保護者など68名の参加による「トンボ池」自然観察教室が開催されました。はまぎんこども宇宙科学館と洋光台まちづくり協議会が主催、洋光台緑地トンボ池愛護会が協力して毎年行われるもので、今年も当会からは、紙芝居スタイルで多くの画像を使って「トンボの話」をしました。シオカラトンボを例にその成長や食性などを分かりやすく説明しました。また、シオカラトンボの白色が紫外線を反射する効果があることが最近発見され、日焼け対策に役立ちそうだという興味深い話もしました。最後に子どもたちは講師陣からヤゴやエビなどを受け取ってトンボ池に放流しました。



放流するヤゴやエビを選ぶ

環境活動案内 Information (8月～10月)

■教室・イベント情報	開催月日(曜)	開催時間	開催場所	開催担当部会
■リサイクル紙で丈夫な椅子を作ろう	8月2日(金)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	会員教室
■夏休み子ども環境体験教室 10 教室	8月5日(月) ～8月9日(金)	10:00～12:00 14:00～16:00	県・環境科学センター	各部会、会員対応
■中津川生きものしらべ教室	8月8日(木) 8月16日(金)	10:00～13:30	神奈川工科大学、中津川	大気・水環境部会
■挑戦！自分で自分を持ち上げる	8月11日(日)	10:00～15:30	県・青少年センター	廃棄物部会(自然)
■ペットボトルで水ロケットを作って飛ばそう	8月12日(月)	10:00～13:00	横浜市立洋光台第二小学校	自然環境部会
■森の木エクラフト作りを楽しもう	8月16日(金)	13:30～15:30	はまぎん こども宇宙科学館	会員教室
■色の実験と偏光万華鏡を作ろう	8月17日(土)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	グリーン部会
■種グライダーを作って飛ばそう	8月18日(日)	13:30～15:30	はまぎん こども宇宙科学館	廃棄物部会(自然)
■つかめる水を作ろう	8月19日(月)	10:00～12:00	どんぐり学童クラブ	グリーン部会
■プラスチックのリサイクル実験と表札作り	8月20日(火)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	会員教室
■環境地球儀を作ろう	8月22日(木)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	グリーン部会
■植物ジュニアレンジャー活動(4) 里山の植物と人のつながり	9月7日(土)	10:00～13:30	四季の森公園	自然環境部会
■「八重のかざぐるま」を作ろう	9月8日(日)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	自然環境部会
■水飲み鳥を作ろう	9月14日(土)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	廃棄物部会(自然)
■めざせ植物ジュニアレンジャー(5) レンジャー実技講座	9月21日(土)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	自然環境部会
■人工の雲を作ろう	9月28日(土)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	グリーン部会
■いつでもどこでも顕微鏡 3 教室	9月9日、10月7日 9月10日(火)	14:30～15:15 14:45～15:30	川崎市立稲田小学校 海老名市立今泉小学校	廃棄物部会(自然)
■ソーラーオルゴールを作ろう	10月12日(土)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	エネルギー部会
■ポプリを作って香りを楽しもう	10月19日(土)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	会員教室
■レモンで科学実験	10月23日(水)	10:00～11:30	平塚中央公民館	エネルギー部会
■伝統工芸「紙すき」を体験してみよう	10月26日(土)	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	会員教室
■人工の雲を作ろう	10月28日(月)	10:40～12:15 13:45～15:20	海老名市立柏ヶ谷小学校	グリーン部会
●定例部会情報	開催月日(曜)	開催時間	開催場所	部会長
●エネルギー部会	8月19日(月) 9月4日(水) 10月2日(水)	(勉強会 15:00) 16:30～17:30	県民センター 会議室	鈴木勝男 (桑原 清)
●自然環境部会 ●廃棄物部会	8月21日(水) 9月18日(水) 10月16日(水)	自:15:00～16:00 廃:16:00～17:00	県民センター10 階 ボランティアサロン	自: 吉田和史 廃: 石井 榮
●大気・水環境部会 ●グリーン部会	未定	—	—	吉村美男 柳川三郎

情報 Collection



事務局だより

武澤研二

JAXA 相模原で宇宙探査

広報部長 小林信雄

7月11日、小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」で2回目の採石に成功。4月には史上初「ブラックホール」撮影に成功など、宇宙の話題が多い昨今です。そこで、宇宙を身近に探査できる施設「JAXA 宇宙科学研究所・相模原キャンパス」の見学施設「宇宙科学探査交流棟」を紹介します。(JAXA: Japan Aerospace Exploration Agency)

JAXA の中枢部門は筑波宇宙センターですが、「はやぶさ2」の運用は「相模原キャンパス」です。「相模原キャンパス」は、「はやぶさ」だけではなく、ロケット、人工衛星、探査機、そこに搭載する機器の開発や試験を行う施設であり、太陽の活動、月、惑星、ブラックホールや銀河の成り立ちなど、宇宙に関するさまざまな謎の研究を行っています。

「宇宙科学探査交流棟」では JAXA の概要、宇宙開発、人工衛星や探査機、ロケット模型などを閲覧できます。太陽と惑星環境、天体探査技術など、今、必見のスポットです。見学は「自由見学」、「展示解説ツアー」を予約なしで見学できます。宇宙グッズの売店、食堂もあります。

ホームページを閲覧して開催日、時間を確認して出かけることをお勧めします。アクセスは、JR 横浜線の淵野辺駅からバス、小田急線の相模大野駅からバス。所在地は相模原市中央区由野台。http://www.isas.jaxa.jp/visit/

● よこはま夢ファンド ●

この助成金は当会の環境保全活動に大いに貢献しています。会員の皆様、当会を指名して「よこはま夢ファンド」への寄附をお願いします。ふるさと納税の減税対象です。

■ 令和元年度 総会報告

令和元年度総会は5月23日(木) かながわ県民センター306 会議室にて開催し、全議案とも提案通り承認されました。今年度の役員業務分担は、本誌表紙ページの下部に掲載しましたのでご覧ください。

■ 理事会の開催予定

- ・8月15日(木) 705 会議室
- ・9月12日(木) 604 会議室
- ・10月10日(木) 705 会議室
(場所と時間はいずれも「かながわ県民センター」、14:00~16:00)

★新入会会員3名 ・高橋典子様(4月入会)
・鈴木勲夫様(6月入会) ・矢島孝彦様(6月入会)

● 会員募集 ●

私たちと“エコ学習”しませんか？
エコ学習を見学できます



■ 編集後記 ■ 海洋プラスチックごみが地球規模の環境問題としてクローズアップされています。6月末、大阪でのG20サミットでは「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」としてプラごみによる新たな海洋汚染を2050年までにゼロを目指すことが共有されました。ネット情報では、環境NGOや市民団体などが「目標達成時期が遅すぎ、問題解決に不十分」と指摘しています。目標設定の宣言は有意義ですが、それにも増して重要なのは目標到達までの道筋(ロードマップ)の策定です。実効性が高いロードマップの策定が望まれます。 小林信雄



特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 「会報第107号」 2019年7月28日発行

■ 発行者：代表理事 田口繁雄 編集：広報部長 小林信雄

■ 所在地：〒226-0005 横浜市緑区竹山三丁目2番地4 竹山3201-134

■ Web: http://kankyo-leader.org/ ・ご連絡、お問合せ E-Mail: npo.k.leader@gmail.com

◆ 寄付・会費等納入口座：ゆうちょ銀行00230-4-30769 神奈川県環境学習リーダー会

★ ©不許複製：神奈川県環境学習リーダー会

ホームページ:「環境リーダー会」検索 ▶

